

令和6年度山形市森林整備推進協議会議事録

- ・日時 令和6年7月16日（火）午前10時00分～
- ・場所 山形市役所10階 委員会開催室

- ・出席者

森林整備推進協議会委員12名

庄司稔委員、松田賢委員、平間利一委員、廣田慶子委員、志田ふみ委員、
伊藤富士雄委員、多田千尋委員、会田幸子委員、佐藤良造委員、中野信吾委員、
白壁洋子委員、添谷稔委員

事務局8名

吉原農林部長、石岡森林整備課長、伊藤課長補佐、三沢林政係長、田澤森林整備係長、
林主任、大場主任

- ・傍聴者 なし

- 1 開会

- 2 委員並びに職員紹介

- 3 会長あいさつ

- 4 協議

- ・議長が議事録署名人に平間利一委員、多田千尋委員を指名した。

- (1) 令和6年度森林整備課の事業概要について

- ・資料1に基づき、事務局より説明。

以下、質疑応答

【委員】

市産材による二酸化炭素固定量認証事業について、現在、市産材を利用した戸建て住宅に対して行っているようだが、交付者が少ないように思う。どのようにPRをおこなっているのか。また、木材の利用が二酸化炭素固定につながり地球温暖化防止に寄与していることを知ってもらうため、もっと多くの一般の方、企業にPRしていくことが重要ではないか。PRのため木製品等で固定量を示していくのも良いのではないか。

【事務局】

二酸化炭素固定量認証事業をはじめた経緯は、ゼロカーボンシティの実現に向けて木材利用によってどのくらい二酸化炭素固定につながっているか市民のかたに周知していくためである。木材が一番使用している部分が戸建て住宅なため住宅補助とあわせて行っている。周知については補助事業のチラシやホームページで行っているが市民の方への周知という観点ではまだまだ進んでいないので今後工夫をしながら進めていきたい。

またあわせて、民間の施設にも木材を多く使用してもらいたいという意味で市産材利用店舗等内装木質化事業を去年から始めたところだ。普及啓発のため市産材を使用してもらったらプレートをつけてもらいPR 図っているところではあるが二酸化炭素固定量という観点では普及啓発しきれていないと思うので、同様に周知を進めていきたい。

【委員】

小・中学校の木材提供の話があったが、その他に子供向けに木材触れる活動など何か行っているか。

【事務局】

木材提供の取り組みとしては1歳6か月健診の積み木贈呈があげられる。1歳6か月から木に親んでもらい木の良さを知ってもらうことにつながっている。また、あーべやべにっこひろばとも連携しあかちゃんが木に触れあえる機会を作っている。

【委員】

幼稚園等年齢が低い子供を対象としているようだが学生(小学生、中学生)を対象とした取り組みはあるのか。

【事務局】

市が直接実施している事業はないが、市産材を林業事業体に提供し、いろんな取組を行ってもらっている。山形建設労働組合さんに市産材を提供し、山形ビックウイングや山形駅のひろばを利用して木を切ったり、木製品を作ってもらったりしている。

また植樹祭では幼稚園児や緑の少年団に所属する小学生から参加いただいて森林に親しんでいただいている。

【委員】

山形市の路網密度が全国平均より下回っているのは何が原因なのか。

【事務局】

山形市は林道係を設け、基幹林道、林業専用道、森林作業道をあわせて整備している。資料で示している全国の林内路網密度というのは基幹道の林道と林業専用道を指しており山形市ではそこに含まれない枝となる林業作業道を作設しながら森林整備を進めている。路網密度が低いから森林整備が進んでいないということではなく、林業作業道をうまく活用しながら森林整備を進めているということ。

しかし路網密度が低いのは事実であり、路網密度を増やしていくため市内全域を見越した全体路網計画を作成していきたい。

【委員】

路網整備は森林の保全管理に比例するものだと思うので路網整備を進めてほしい。

(2) 山形市森林整備計画の推進に向けた新たな取り組みについて

- ・資料2に基づき、事務局より説明。

以下質疑応答。

【委員】

木育推進事業の効果について二酸化炭素固定量に寄与していることも記載するとよいのではないか。

【事務局】

木を使用することが二酸化炭素固定量につながっているということも併せて記載したい。

【委員】

花粉症対策として皆伐再造林計画を進めていくとあるが、年度ごとに計画している主伐や皆伐をさらに増やす事につながり、大変になるのではないか。

【事務局】

昨年、国で花粉症対策として2050年までに人工林の3割の皆伐を進め花粉の出ないスギに植え替えていくという方針が示された。実現にむけて今の主伐、皆伐に追加して行う計画になると思うが、山形市は皆伐再造林の重点地区に該当しているため積極的に進めていきたいと思っている。主伐、皆伐を増やしていく為には、林業事業者がどのくらい請け負うことができるかというところが大きな問題になってくると思うので、計画を作成する際に森林組合をはじめとする林業事業者の方々と議論を交わしながら計画を作成していきたい。

【委員】

戦後スギを中心に植えてきたが、スギだけでなく適材適所あった木を植え替えしていく作業も進めていきたい。
人が少ないなかではあるが森林組合も協力していきたい。

【委員】

親子の林業体験を行うとあるが、木を使うだけではなく森の中はどうなっているか、木の役割など林業について子供たちが学びを深められるような体験にしてほしい。

【事務局】

環境対策や森林学習もいれこんだ体験にしないと林業の人材育成につながっていかないので子供たちの学びが深められるようなカリキュラムを考えたい。

【委員】

やまがた木造設計マイスターについて今年もセミナーが決まり9月18日からスタートする。開催会場が全て山形市なので山形市内の建築事務所に所属する設計士さんが多くなると思う。山形市産材利用拡大事業と抱き合わせで考えていただけることは非常にありがたい。

【委員】

山形市で出す材木については確実に山形市産材を使っていくという考えを森林整備課だけではなく市役所内部で共有し統一すべき。

新しい市民会館建設に伴ない市産材を半分以上使用したり、学校建設でも手に触れるところ、目に見えるところに使用したりするなど、積極的に市産材を活用してほしい。

【事務局】

市産材利用の取り組みについて庁内会議や書面で伝えてきてはいるが、まだまだ意思の統一は図られていなく、市の課題としてとらえている。これから、庁内木材利用調整会議に山形市産材連携協定のメンバーに構成委員として入っていただきご意見をいただくことで市の市産材利用拡大にむけた取り組みを推進していこうと考えている。今年度より取り組みを実施したいと考えており、市産材連携協定のメンバーの方々に依頼をしたいとおもいますのでご協力をお願いしたい。

【委員】

最近山の荒廃が進み心配していたが、森林整備課の事業について一通り聞いて、明るい方向に進んでいく気がした。

【委員】

生産森林組合の管理する人数が少なくなってきたが、生産森林組合に協力いただきながら皆伐再生林の計画を進めている。また、白壁委員から子供たちへの森林学習を行ってもらっている。

【委員】

ゼロカーボンシティの実現にむけ、木材というセクターがどのように街に貢献しているか広い視点で発信していくことが大事である。

【委員】

皆伐再生林計画に伴い主伐、皆伐を増やしていく計画がでてきているが、作業するわたしたちがこなせるのかというところが非常に不安な点である。そのなかで地域おこし協力隊の活用は新たな人手確保の取り組みとなるが、実際問合せはきているのか。

【事務局】

現時点で山形市に対して地域おこし協力隊の要望はない。林業事業体の人材不足が大きな課題になっていることから人手不足解消にむけて林業事業体だけでなく、行政も関わっていく方法として考えた。来年度から募集を行なっていく。もし採用できたら林業事業体の方と一緒に現場に入らせていただきたいと考えているので人材育成のために林業事業体の方々から御協力いただければと思う。

【委員】

去年松枯れが一番ひどく、今年も山をみると赤いところが目立ってきていることから今年もひどくなることが予想される。倒木など人への影響も懸念されることから松枯れの対策を強化しなければいけないのではないかと。

【事務局】

30～40年前も松枯れがひどかったが、近年と大きく違うのは、松が大きく成長し幹の太さも太く、伐倒することが困難になってきていることである。松枯れが全域に増えていっている中で全てを駆除することはマンパワー的にも予算的にも厳しいが、県と連携しながら防除対策を進めていくとともに、観光名所など人が集まる場所を優先的に進めていきたい。

5 その他

6 閉会